

# 山形大学山崎ゼミ×YIDFF特別上映会 現代の受難と向き合う気迫 —『要塞』と『稲妻の証言』—

山形国際ドキュメンタリー映画祭では、現代社会の重いテーマに向き合った映画が、これまで数々上映されてきました。

今回上映するのは、難民問題の縮図のようなスイスの施設を凝視した『要塞』と、南アジア現代史を女性に対する暴力の歴史として描き出す『稲妻の証言』です。

難民や女性たちの受難が圧倒的ななら、それと向きあう映画人の気迫も圧倒的です。2作品を、連続上映します。

## 7月10日(土)

会場 山形ドキュメンタリー  
フィルムライブラリー 試写室  
(山形市平久保100 山形ビッグウイング 3F)  
料金 無料



## 第一部 10:30~

監督

フェルナン・メルガル

スイス  
2008年  
フランス語 他  
105分

映画祭2009  
インターナショナル  
コンペティション

## 第二部 13:30~

監督

アマル・カンワル

インド  
2007年  
英語 他  
113分

映画祭2009  
インターナショナル  
コンペティション

## 稲妻の証言

### The Lightning Testimonies

# 第一部



## 要塞

### The Fortress / La Forteresse

スイス  
2008年  
フランス語 他  
105分

スイスの難民受け入れ施設。そこには亡命を希望する人々が、当局の決定を待つ間一時的に収容されている。様々な理由で故国を離れ、生きる場所を求めて世界中から流れ着いた者たちと、受け入れの是非を検討する職員たち。施設内に生まれるささやかな交流。日常的に“選別”が行われている場を見つめ続けることによって、今日の難民問題の現実を浮き彫りにする。

#### <第一部 タイムテーブル>

10:25 イン트로ダクション

10:30 要塞(105分)

12:15-12:30 解説と討論

12:30 休憩



#### 監督 フェルナン・メルガル (Fernand Melgar)

スペインの組合活動家の一家に生まれる。80年代はじめ、ローザンヌで友人たちと一緒にル・キャバレー・オーウェルを設立。このナイトスポットで独創的なビデオ上映を行った後、独学でフリーの映画監督、プロデューサーとなる。1983年、テレビ用にさまざまな実験映画や偶像破壊主義的なルポルタージュの制作を開始。1985年にドキュメンタリー映画作家集団のクリマージュに参加。同団体の援助を受けて十数本のドキュメンタリーを制作し、複数の国際映画賞を受賞する。

「私は、この国で他者への恐怖を煽り立てたものが何なのか、保護区だったこの地を難攻不落の要塞に変えてしまったものが何なのかを理解したかった。」

# 第二部

## 稲妻の証言

### The Lightning Testimonies

インド  
2007年  
英語 他  
113分

1947年のインド・パキスタン分離独立から現在まで続く、女性への性暴力を繰り返している対立の歴史をさまざまな映像表現で辿り、暴力の残虐さと女性たちの尊厳ある強靱な精神を描く。様々な時代、社会層においてインド各地の個人や社会がいかに暴力に耐え、記憶に刻み、記録に残してきたかが、入念なりサーチを通して浮かび上がり、作品の根底にある暴力への強い憤りとは対照的な静謐な映像は、やがて我々を苦難の先にある静かな祈りへと導く。

#### <第二部 タイムテーブル>

13:30 イン트로ダクション

13:35 稲妻の証言(113分)

15:30-15:45 解説と討論

15:50 終了



#### 監督 アマル・カンワル (Amar Kanwar)

1964年生まれ。エドヴァルド・ムンク現代芸術賞(ノルウェー)受賞者であり、インド亜大陸の政治・社会・経済・環境状況を、その詩的かつ思索的な映画で探究している。インド・パキスタン国境における暴力と非暴力の問題を検討し、数多くの映画祭で受賞歴あり。またその映画作品は、アムステルダムのアムステルダム美術館、ニューヨーク近代美術館、オスロ国立美術館などで、特別展示の対象にもなっている。

「この映画は、政治的な対立における性的暴力の体験を通して、インド亜大陸の歴史を省察していると言える。」